

5 渡台を決意



内閣総理大臣
伊藤博文



全権大臣
李鴻章

台湾割譲

日清講和講和条約 (明治28年 4月)

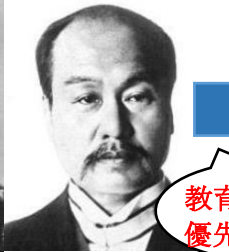


義勇軍 丘逢甲

抗日ゲリラ
鎮圧平定



初代総督
樺山資紀



総督府学務部長
伊沢修二

教育こそ最
優先すべき



6人の学務官 (後列一番右が平井数馬)

台湾子弟の教育



義勇軍 陳季同



三民主義を
唱えた孫文



支援

宮崎滔天

総督府は教育の重要性から
各所に国語伝習所を開設

三民主義の実践

哲太郎は渡台を決意



学務官僚遭難之碑 (台北市)

遭難

芝山巖学堂に通う台湾人生徒

日清戦争の結果、1895 (明治28)年4月日清講和条約で台湾が日本に割譲されます。台湾総督府は割譲反対の丘逢甲らの义勇軍を鎮圧して台湾全土を制圧します。制圧と同時に総督府学務部長伊澤修二は「教育こそ最優先すべきである」と提唱し、台北に「芝山巖学堂 (しざんがんがくどう)」を設立して熊本県出身の平井数馬 (ひらいかずま) ら6名の学務官を派遣しました。学務官は台湾人生徒と同じ部屋で寝泊りし、食事も共にして日本語教育だけでなく、日本の礼儀作法を教えました。しかし、芝山巖学堂は1896 (明治29)年元旦、抗日ゲリラの襲撃を受け、学務官は全員殉職しました。六士先生の教育活動はわずかな時間でしたが、彼らが犠牲を払って培った芝山巖精神は日本の教育界を揺るがし、遺志を継承するべく多くの教師が台湾へ赴きました。哲太郎もその一人と思われ、哲太郎は台湾子弟の教育、四海同和、日台同化の達成に一生を捧げる決意をしました。